

(新) 日本の国立公園と世界遺産を活かした地域活性化推進費 (一部公共)
3, 212百万円 (0百万円)

自然環境局総務課自然ふれあい推進室、自然環境計画課、
国立公園課、自然環境整備担当参事官室

1. 事業の必要性・概要

日本には、亜熱帯から亜寒帯、原始的な自然から里地里山や里海まで、多種多様な自然環境が存在する。その優れた自然の風景や生物多様性、自然に根ざした地域の文化は、観光資源として極めて高い価値を有しており、国内はもとより訪日外国人の関心も高い。

こうした自然環境のうち特に重要な地域は、国内では国立公園や世界遺産として保全管理されているが、こうした地域についても観光資源としてのポテンシャルを、更に引き出し、これを地域づくりに活用できる余地が大きいと考えられる。

そのため、日本の自然の魅力を質の高い保護管理によって維持しこれを効果的に国内外に向けて発信するとともに、より深く自然を体験するために必要なプログラムや施設の整備等を実施することにより、多くの利用者を誘致し、地域の活性化を図るものである。

2. 事業計画 (業務内容)

- (1) 戦略的な情報発信推進事業
- (2) 日本の国立公園・世界自然遺産保護管理強化事業
- (3) 国立公園等地域活性化促進連携事業
- (4) 地域自然資源活用重点整備運営事業 (国立公園バリューアップ事業)
(公共)

	平成 26 年 度	平成 27 年 度	平成 28 年 度	平成 29 年 度	平成 30 年 度
全事業	←				→

3. 施策の効果

国立公園、世界遺産の自然資源を保全し、これを活かした地域づくりに寄与し、地方経済の活性化や地方の雇用機会を創出。

多言語化を含む戦略的な情報発信により、国立公園や世界遺産のブランドを活かした国内外の観光客の増加。

日本には世界の人々を魅了する豊かな自然が多数存在

国立公園等の**自然や自然に根ざした地域の文化**は、観光資源として極めて高い価値を有し、訪日外国人の関心も高い。



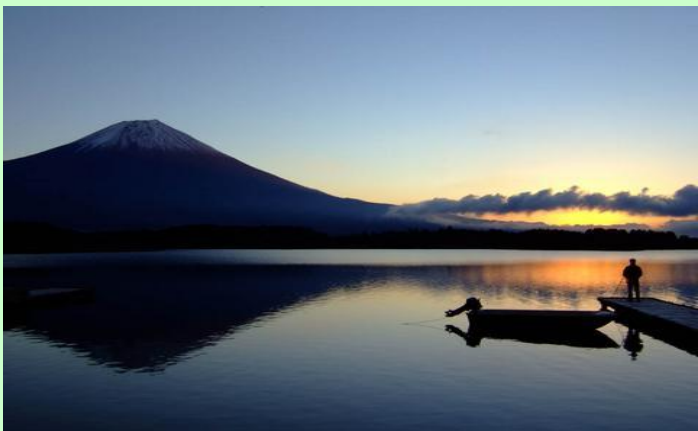
ポテンシャルの高い日本の自然を活かし、国内外から多くの観光客を呼び込み、地域を活性化。

目標

日本の自然の魅力の効果的な発信やより深く自然を体験するため必要なプログラムや施設の整備等を実施



我が国は、ポテンシャルの高い豊かな素晴らしい自然を多数有する



魅力をさらに引き出す“四本の柱”

① 戦略的な情報発信

利用者ニーズに応えた情報をインターネット等を活用し、国内外に戦略的に発信。



② 質の高い保護管理

貴重な自然環境は、国の資産。国立公園、さらには世界遺産として、質の高い保護管理を実施。



③ 地域との連携とプログラムの強化

エコツーリズム、ジオパーク、ボランティア体制や協働型管理運営体制の導入により地域とともに利用推進。



④ 国立公園のバリューアップ(公共)

重点的な施設の整備と運営管理の充実を図り、自然資源を生かした観光の促進と地域の活性化を推進する。



利用者増↓地域の活性化！！

地域自然資源活用重点整備運営事業(国立公園バリューアップ事業)

平成26年度概算要求額 2,200百万円(新規)

○訪日外国人旅行客 H25上半期23%増

次回実施したい活動 自然・景勝地観光36.6%
四季の体感33.9%
自然体験ツアー・農漁村体験21.3%

○国内旅行客も増加傾向



これら旅行客のため、我が国を代表する景勝地である国立公園における施設の整備と既設の施設を含めた施設の活用が重要

事業の概要

国立公園の保護及び利用上重要な一定のまとまりある地域を対象に、重点的な施設の整備と運営管理の抜本的な向上を図り、自然資源を活かした観光の促進と地域の活性化に資する。

重点的な施設の整備

- ◆地域特性や利用者ニーズに合った利用者のための施設の整備
- ◆自然資源を維持するための生態系再生・維持・回復施設の整備

運営管理の充実

- 施設を安全・適切に利用するための点検・修繕等の着実な実施
- 施設における自然体験活動の充実等の施設の十分な活用

地域の自然資源や施設の潜在的な価値、機能を最大限に活用

地方における観光の促進と地域の活性化に寄与

事業実施イメージ:

慶良間諸島(H25年度国立公園指定予定)



利用施設(遊歩道)の整備



多言語対応の情報提供施設の整備



自然資源(サンゴ)の再生・維持



活動施設の活用